

平成24年度 第4回 府中市高齢者保健福祉計画・
介護保険事業計画推進協議会会議録

1 日 時 平成25年3月7日(木) 午前10時～11時

2 会 場 市役所北庁舎3階第6会議室

3 出席者 (委員)

鈴木(眞)会長、近藤委員、澤田委員、鈴木(恂)委員、田口委員、田中委員、
能勢委員、原田委員、矢ヶ崎委員、渡邊委員

(事務局)

芦川福祉保健部長、川田福祉保健部次長兼高齢者支援課長、
峯尾地域支援統括担当主幹兼施設担当主幹、
山田高齢者支援課長補佐兼介護保険担当副主幹、石谷包括ケア担当主査、
板橋地域支援係長、鈴木福祉相談担当主査、青木地域ネットワーク担当主査、
山中介護予防担当主査、関根介護保険係長、立浪介護サービス係長、
田中事業者指導係長、林介護認定係長、高野施設担当主査
府中市地域包括支援センターよつや苑、府中市地域包括支援センターあさひ
苑、府中市地域包括支援センターしみずがおか、府中市地域包括支援センタ
ー泉苑、府中市地域包括支援センター安立園、府中市地域包括支援センタ
ーかたまち、府中市地域包括支援センターしんまち、府中市地域包括支援セン
ター緑苑、府中市地域包括支援センターにしふ、府中市地域包括支援センタ
ーこれまさ、府中市地域包括支援センターみなみ町

4 欠席者 佐藤副会長、竹内委員、松本委員、村松委員

5 傍聴者 1名

6 議事事項

- (1) 平成25年度高齢者支援課関連予算(案)の概要について
- (2) 平成25年度府中市高齢者保健福祉計画・介護保険事業計画推進協議会開催予定等
について

7 議事内容

- (1) 平成25年度高齢者支援課関連予算(案)の概要
ア 平成25年度高齢者支援課関連予算(案)の概要について、資料1～資料3に基
づき説明がありました。

イ 質疑応答、意見等

問 1 **資料1**の援護費について、予算の増減が1,382万7,000円の3パーセント減とあり、また、主な事業の内訳を見ると、新規事業が約800万円で立ち上げられている。それを差し引きすると、平成24年度に行われていた事業については、約2,100万円の減額がされることとなる。それだけの減額をして、平成25年度の対応が出来るのか。

答 1 (事務局) 援護費に含まれる新規事業には、昨今、話題となっている孤独死・孤立死や熱中症といった問題を事前に防ぐための事業として、一人暮らし高齢者緊急時見守り事業、熱中症対策事業を、また、在宅療養環境整備推進協議会（仮称）の立ち上げを計画している。更に生きがい対策費では、ひとり暮らし高齢者地域支援事業費について、レベルアップ事業とし、増額をする工夫をしている。平成25年度予算については、財政課から全体に対し、前年度比7パーセントの減額をするようにと指示があったなかで、高齢者の見守り等が十分できるような予算を組むことができたと認識をしている。

問 2 平成24年度の既存事業である、ねたきり高齢者おむつ助成事業や、ねたきり高齢者寝具乾燥事業等に対して、平成25年度の予算は新規事業分を含め、約2,100万円の減額となっているわけだから、そうするとサービスの低下があるのではないかという懸念があった。問題ないということであれば結構である。

答 2 (事務局) **資料1**の援護費の予算減について、この中で、特に大きな事業を廃止したというものはない。30ほどの事業があるので、それぞれの事業を実績に合わせて細かく積算し、その結果、削減をしたものである。

意見1 地域包括支援センターは、地域においてきめ細かく全体的なことに取り組まなければならない。その仕事は、高齢者が地域の中で暮らしていくためには、多岐にわたり、どれだけ沢山の仕事ができるかということが重要になると思う。予算額の前年度比7パーセント減という状況のなかで、その環境が守られたありがたい予算を組んでいただいたと思う。

問 3 扶助費については、市内養護老人ホームの措置費にかかわる費用という説明だが、この1億6,000万円という金額は、年間で何名くらいの養護老人ホームの措置者を想定しているのか。

答 3 (事務局) 約60名程度のニーズを想定して予算組みをしている。現状の数字と過去の実績等から推測し、予算立てしている。

問 4 高齢者支援課の管轄外ではあろうが、最近、生活保護の問題が話題になっている。生活保護受給者に占める高齢者の割合がその問題を更に深刻化させているということも、報道されている。市内における高齢者の生活保護の状況はどのようになっているのか、教えていただきたい。

答 4 (事務局) 生活保護受給者について、去年は、全国で約213万人、制度発足以来の過去最高の受給者数ということだった。府中市も例外ではなく、年々増えている。

生活保護受給者の内の高齢者の割合は、正確な数値は持ち合わせていないが、約40パーセントである。実際の府中市内の生活保護受給者数は約4,800人で、市民のおよそ50人に1人が生活保護を受給しているという状況である。最近では、リーマンショック以降、働けるのに働く場がないという方が増えているという特徴的な状況があるが、やはり全体的には、一人暮らし高齢者や高齢者のみ世帯という方たちの生活保護受給が増加傾向にある。

問 5 **資料1**の援護費の予算で、高い割合を占める事業について、新規事業以外で教えていただきたい。

答 5 援護費には、およそ30の事業があり、その中で平成25年度の予算額が大きいものは、ねたきり高齢者おむつ助成事業費が1,866万4,000円、在宅ねたきり高齢者介護者慰労金支給事業費が3,857万9,000円、高齢者住宅借上費が1億4,888万4,000円などである。

問 6 生活保護を受ける在宅の高齢者の中には、生活保護のほかにも様々な支援を必要とし、なおかつ、介護度を重くさせるような生活環境にいる方もあると思う。そういった場合には、養護老人ホームが持つ食事や健康の取組等の介護予防的な機能を活用することで、高齢者の快適な生活につなげることができるのではないか。管轄の違いや財政の問題もあり、難しいかもしれないが、個別のきめ細かな対応が求められる中で、今ある制度や機能を活用していくことが必要かと思う。

答 6 現在、生活保護の申請に来られた方に対しても、場合によっては、高齢者支援課の福祉相談の担当者も話合いに加わり、対応をしている。今後も、個人に合った生活ができるよう、しっかり対応していきたい。

(2) 平成25年度府中市高齢者保健福祉計画・介護保険事業計画推進協議会開催予定等
ア 平成25年度府中市高齢者保健福祉計画・介護保険事業計画推進協議会開催予定等
について、**資料4**～**資料5**に基づき説明がありました。

イ 質疑応答、意見等

補足1 平成25年度にアンケート調査を予定しているが、福祉の状況については、
(事務局) ご承知のとおり、刻々と変化している。最近では、孤独死、生活保護、低所得者の問題など、色々な問題を複合的に抱えている世帯をどのように地域で支援していくかという新しいトピックも出てきている。アンケートの調査内容については、基本的には前回は踏襲するということではあるが、状況の変化等を踏まえ、新しい調査項目を取り入れることも可能である。そういった意見であっても、検討協議会で諮ったうえで、皆様の意見をできるだけ反映させるように進めていきたいと考えているので、ご審議のほどをよろしく願いたい。

補足2 平成25年度から、第6期の高齢者保健福祉計画・介護保険事業計画策定に
(事務局) 向け、検討を進めていくことになる。現在の第5期の計画が平成24年4月から始まったばかりで、次の第6期の計画を検討するには早いという印象がある

かもしれないが、平成25年度にアンケート調査を実施し、次にその調査結果を分析しながら、第6期の計画に向け検討し、実際には平成26年度中に計画を策定していく。後半はかなり、タイトなスケジュールになるので、時間が足りなくなり、アンケート調査の分析だけで終わってしまいかねない。事務局としても努力していかなくてはならないが、きめ細かい分析をしながら、第5期の計画以上に実のある計画にしていきたいので、委員の皆様には引き続き協力をよろしくお願いしたい。また、現場の意見も、吸い上げていかなくてはいけないので、地域包括支援センターからも意見をもらいながら、実態に合った高齢者の福祉につながる計画をつくっていきたい。

意見2 今回の議題は、平成25年度予算についてであったが、この協議会で予算を変えることはできないので、その中の主な事業や新規事業について、具体的な協議ができればよかった。

意見3 民生委員として地域で活動をしているが、この協議会で府中市全体の話の聞いてみると、府中市の中でも高齢者の割合など、それぞれの地域性があるということを感じている。

意見4 老人保健施設の仕事を15年やってきているが、この15年の間にも、施設の利用の仕方は変わってきている。老人保健施設は、自立して、住み慣れたところで、自分らしい、QOLのある生活をするを目的としている。そのために一番大事なことは、精神的及び身体的なリハビリをすることであり、リハビリのスタッフは当初に比べ、4倍近くになっている。府中市には様々な形の入所施設があるが、入所された方が一人でもご自宅に戻れるようにするための施設がまだ足りないと感じている。3年、5年という計画も必要ではあるが、2025年という長期的な視点で、これから高齢化していく団塊世代の方の入所を考えた施設についても、検討をしていただければお願いしたい。

意見5 平成25年度予算の中で、熱中症対策や在宅療養の環境整備などの保健所としても気になるところが新規事業として挙がっていてありがたく感じている。保健所の仕事は、非常に広域化し、地域に密着したきめ細かな仕事が難しくなっている。そのなかで、この協議会や府中市地域密着型サービス指定関係部会にも参加することで、逆に地域の高齢者の実態やサービスの動きなどを学ばせてもらい、感謝している。

意見6 介護保険制度が始まって以来、この高齢者保健福祉に関連する事業にかかわってきているが、内容は、地域包括の問題など、大変変わってきていると感じる。ますます内容は濃いものになると思うので、これからは市を中心にしてお手伝いしていきたい。

意見7 私は、第4期の計画から、居宅支援事業者として、かかわってきているが、国の動きもかなり変わってきている。市区町村での指定事業という形で、より地域に密着し、ケアマネージャーがより利用者の側に寄っていかなければ仕事が出来ないという時代に進んでいくのではないかと感じている。府中市と連携

を組みながら、事業者連絡会で標準的なものをつくりあげていきたい。特に、府中市がもともと独自に取り掛かってきた介護予防事業について、今後どのように地域支援事業にシフトしていくのか、あるいは、府中市としてどのような形がよいのかということを提案し、協議し、府中市独特のものをつくれたらよいと感じている。

(4) 開催日程について

次回開催については平成25年6月中旬を予定。

以上